

七七 白山の殺生人立入停止之儀觸

白山一山の先規は殺生人立入不申候處、近年殺生人入込、森之内所々に火を燒、火之用心惡敷、神主ども迷惑仕候。依之一山の殺生人罷越不申候様、禁制札被仰付可被下旨、神主相願申候得共、先年より禁制札相建不申儀御座候間、如何可有御座候哉。併右之通火之元惡敷御座候間、此儀一統被仰聞御座候様仕度奉存候。以上。

(享保廿年) 閏三月二十六日

山崎庄兵衛
伊藤内膳
本多主水

奥村内匠様

別紙社奉行紙面寫指越之候條、組・支配之面々にも被申渡、且又組等之内裁許有之人々は、夫々相達候様被申聞、尤同役中可有傳達事。右之趣可被得其意候。以上。

四月十一日

前田大炊

七八 嫁娶之節礮打等停止之儀觸

町中之者嫁娶仕候時分、水を懸或は礮打申儀、堅不仕管に申渡置候。然所近年町人共嫁娶仕候得ば、夜中石を打、家なども損、あやまち人も可有之躰に御座候に付、町人共にも度々申渡置候。頃日茂嫁娶仕候者有之候所、大勢相集石を打候由有之に付、足輕指出候得ば相止申候。畢竟於町方、大勢集り騒敷族之儀御停止之筋に御座候故、此以後嫁娶仕候節、石など打申儀有之候ば、人少成内早速組合之者共罷出、制止可申候。承引不仕もの有之候ば、何者に不眼捕候て、私ども方召連罷越候様に申渡候。右石打申者ども、町人迄にても無之、奉公人躰之者も大勢相交り申様子御座候。右之通申渡候に付、若とらへ申節こだはり候もの、棒などにあたり申儀も可有之候。其節に至彼是与有之候ても如何御座候間、兼而左様之所相加り不申様に、御家中家來末々迄、主人より申渡候様に仕度儀に奉存候に付申上候。以上。

(享保廿年) 九月三日

稻垣與三右衛門

小堀左兵衛

横山大和守様

町方之者嫁娶仕候時分、水を懸或礮打申儀に付、別紙町奉行紙面之寫指越之候條、被得其意、組・支配之面々にも被申渡候。組等之内裁許有之人々は、其支配にも相觸候様被申聞、同役中可有傳達事。右之趣可被得其意候。以上。

九月廿一日

横山大和守

一兩年以來御家中侍中並町方之者致嫁娶候節、夜中石を打、門戸等茂損、あやまち人茂可有之躰に相聞え候。婚禮之時分礮打申儀堅不仕様に先年茂申觸候所、相背候段不屈之至に候。自今右族於有之者、急度可申渡候條、此段家來末々迄嚴重申渡候様、組・支配に被申聞、組等之内裁許有之面々は、其支配にも相達候様可被申渡候。右之趣可被得其意候。以上。

(寶曆十三年) 四月四日

村井又兵衛

七九 火事之節御行列鑓印之儀御定

火事之節御行列に罷出候人々鑓印、銀之二枚短冊を付け、右鑓印を以御供相しらべ申候。御行列之外は、銀二枚短冊鑓印用不申管に候間、御承知被成、御組・御支配等にも夫々御申談置可被成候。以上。

(享保廿年) 十一月朔日

御横目

八〇 伎藝之者の宿不仕儀觸

伎藝之者他國より罷越有之徘徊仕旨、頃日沙汰有之候。若は商賣などにかこつけ罷越居申候て、右之族にても候哉。町方・社方・御郡方、右躰之もの宿不仕様に、夫々急度可被申渡事。右之通町奉行等申渡候條、被得其意、侍方長屋借屋守等、右之族之者たよらせ不申様、組・支配之人々急度可被申渡事。朱書。右享保十七年十二月十八日前田土佐守殿被仰渡。